IV-JAPAN
NEWS【NO.20】2014.3.31 発行

災害緊急支援のフィリピン（セブ）事務所開設

2013 年 11 月 8 日、フィリピン中部を襲った台風『ヨランダ』は死者・行方不明者 7500 人以上に上るフィリピン自然災害史上、未曽有の被害をもたらし、現在、各国の NGO、政府や国際機関の支援・協力により当初の緊急状態からは脱してはいるものの、復旧、復興の道はなお険しい状態にあります。（写真上：炊き出し支援中の子ども達）IV-JAPAN は炊き出し支援募金を呼びかけ、この募金は目標額を大きく上回り、支援を寄せられた皆様方には改めて感謝と御礼を申し上げます。

この支援経験から、構想されたのが表題にあるフィリピン事務所開設で、フィリピンは気候変動の影響から、普段台風の来ない地域へ毎年のように台風が襲来、しかもその被害規模は大きく、地場産業経済にも多大な影響を与えています。またマニラなどの大都市圏でも年中行事のように出水騒ぎが生じ、この他、地震、噴火もあります。こういった現地事情から、理事会承認を経て自然災害緊急援助を目的とする日本の NGO・JPF（JAPAN PLATFORM）に加盟申請し、支援活動の資金調達と、情報入手の道筋を付けることとなりました。今回フィリピンで立ち上げる支援組織は名称を、『IV-JAPAN フィリピン事務所』とし、事務所責任者として弁護士の Louella .A. Matsumoto（写真右下）を理事会で選任し、既に開設準備を進めております。この事務所は IV-JAPAN 日本本部と連携して活動するものですが、セブ都市圏のマンダウエ市内に事務所を設け、フィリピンの国内法に則った法人組織にします。これは今回の台風被災者支援で日本の NGO が被災地において多数活動していますが、フィリピン国内の法人格を持たない組織のため、活動に不便、支障をきたしていることと、そういったしっかりした組織ならば協力したいというフィリピン人、特に医療関係に携わる人からのボランティアの申し出があり、将来を見据えた組織形態が必要と判断しているためです。

最後に、フィリピンの大統領が『貧しい国に災害は集中してやってくる』と述べている現状に、IV-JAPAN フィリピン事務所がこういった嘆きを少しでも和らげられる存在になるように活動を展開したいと考えております。拙文でありますが、改めて皆様のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。（フィリピン事務所副所長　松本重樹）

目　次

1ﾍﾟｰｼﾞ…フィリピン事務所開設　2ﾍﾟｰｼﾞ…セブの台風支援報告　3ﾍﾟｰｼﾞ…JICA草の根パートナー事業　4ﾍﾟｰｼﾞ…外務省Ｎ連事業
5ﾍﾟｰｼﾞ～6ﾍﾟｰｼﾞ…JICA木工職業訓練、SIA＆水と大地と緑の会助成事業　7ﾍﾟｰｼﾞ…2015年ラオスミレニアム目標
8ﾍﾟｰｼﾞ…タイニュース　9ﾍﾟｰｼﾞ…千客万来　10ﾍﾟｰｼﾞ～11ﾍﾟｰｼﾞラオス便り、お知らせ　12ﾍﾟｰｼﾞ…寄付者一覧

フィリピン・セブの台風支援報告

～台風『ヨランダ』被災者支援　炊き出し活動報告～

炊き出しの地元ボランティア

炊き出しで並ぶ子ども達

被災 5 か月後の市場

【活動期間】・第 1 期：2013 年 11 月 21 日～12 月 2 日（12 日間）
第 2 期：2013 年 12 月 6 日～12 月 17 日（12 日間）　　計 24 日間

【活動地域】・フィリピン・セブ州北部　ダアンバンタヤン町及びメデリン町

【活動形態】・ダアンバンタヤン町中心部から 5 キロ地点にあるマリギン地区に炊き出し拠点を設置し、近隣地区被災住民への定期的配食及び町内山間部と海岸部集落への車による巡回配食。また、乳幼児、小学生を対象に学用品の寄贈と栄養補助も行う。

【成　果】・炊き出しではのべ約 4000 食を提供。食事の提供は誰にも喜ばれたが、特に山間部や町から離れた支援の行き届かない地域を巡回しながらの配食は好評だった。また、炊き出し拠点が地域住民と子ども達（常時 20～30 人）の集いの場と遊び場のようになり、特に台風で怖い経験をした子どもに対して良い環境を提供できた。

【問題点】・①炊き出しが始まったのは被災 2 週間後だったために、被災直後の切迫性は薄く、3 日目にセブ島北部への道路が全通し、現地偵察に行った時点から開始できていたらなお効果的だった。しかし、全く事前準備なしの状態から炊き出しの機材準備、現地手配を考えると今回は初めての経験でもあり、炊き出し開始までに要した時間はやむを得なかった（参考：IV の炊き出しと日本の自衛隊医療班が同町に進出したのは同時だった）。
②今回の炊き出し拠点は報告者の松本が良く知っている場所だったために運営はスムーズだったが、今後違う環境、地域での炊き出しを含んだ支援活動を行うとした場合、問題が多く生じると思われ、事前の研究が必要になる。

【結論】・フィリピンは毎年のように大きな自然災害に見舞われながら、政府の対策は後手に回り、復旧、復興事業も国連や他国の援助を当てにしていて、今後もその状況は改善されずに続く。このため多種多様の被災支援 NGO 活動の役割は重要だが、その多くは海外から入ってくる NGO であり、被災現地に入るまでに多くの時間と手間を費やす結果となり、かつフィリピンの情報、事情にも疎い面が多く、活動が効果的に運用できない点が多々見受けられる。このため、フィリピン人を主体としたフィリピン現地事情に精通し、即応性を持った被災者支援の NGO を立ち上げる必要を感じている。

【参考】・この炊き出し支援活動について 2013 年 12 月 30 日、フィリピンの日刊邦字紙『まにら新聞』に『百年に一度の台風を体験して』という題で掲載され、下記 HP で読めます。（松本重樹）

http://www.manila-shimbun.com/series/pickup/series210885.html

JICA草の根パートナー事業

～ラオス職業訓練（縫製・理美容・調理）～

【新スタッフ加入！】

VEDI のブントンさん

2011 年 12 月より開始し、約 2 年 3 ヶ月が経過した現プロジェクト。2013 年 12 月より頼もしいスタッフが新加入しました！！　カウンターパート（現地受入れ機関）である職業教育開発研究所（Vocational Education Development Institute: 以下 VEDI）から、OJT 第 2 店舗（上級コース生徒が実地訓練を行う店舗）のアシスタントマネージャーとして派遣されていた Vongphet さんが諸事情によって辞職し、新しくブントンさんという男性が就任しました。色黒で少し（だいぶ？）老けて見える彼ですが、こう見えても 30 歳です。専門は自動車整備ですが、VEDI では専門サービス係の係長として、労働市場のニーズ調査や、関連政府教育機関に対する専門・教育コンサルティングの提供などを行っていたそうです。また、海外での研修参加経験も数回あり、OJT に派遣される直前までドイツで半年間、国際リーダーシップ研修を受けてきました。

ラオス人の公務員は、のんびりした受身の勤務態度の人が多いのですが、ブントンさんはなかなかの働き者。留学経験があるからでしょうか、外国人とも臆せず接することができ、頼んだ仕事も責任感を持って素早くやってくれます。IV-JAPAN で雇用しているマネージャーのノイと協力し、OJT 第 2 店舗（OJT2）を管理しています。第 1 店舗（OJT1）の方はというと、ヴィエンチャン都教育局（Vientiane Education Department：以下 VED）のトンサイさんが訓練生をまとめてくれています。彼は訓練生寮の寮長も任されており、訓練生にとっては時に優しく、時に厳しいお父さんのような存在でしょうか。

現在は IV-JAPAN 日本人コーディネーター、当会所属のマネージャー、そしてカウンターパートから派遣されてきたアシスタントマネージャー全員が協力して管理・運営している OJT ですが、現プロジェクトが終了する 2016 年 11 月以降は、ラオス政府に完全にハンドオーバーされるため、それ以降はラオス側カウンターパート（政府機関）が独自でやっていかなければなりません。そのために、日本人 OJT コーディネーターが日々カウンターパートに対して「独自性」、「自主性」等を養うための人材育成を行っています。

例えばスタッフ会議の方法。ラオスでは、幼少の頃から「自分の意見を述べる」機会が少なく、既に決まっている事の報告のみだったり、上司や高い地位の人たちばかりが発言するような会議が多く、自由に意見を交わすスタイルには慣れていないようです。当会のスタッフ会議は月 2 回行っており、日本人スタッフ、マネージャー、各分野のトレーナーが出席しています。プロジェクト開始当初は英語が話せるスタッフに通訳をお願いし、英語主体で会議を進めていましたが、スタッフ全員が英語を理解するわけではないため、英語で会議が進められるとやはり発言も少なくなり、自ずと受身の態勢になってしまいます。そのため、色々と考えた結果途中からラオス語主体に切り替えることにしました。また、現在は会議進行や議事録係もスタッフに持ち回りで担当させ、「自分たちで会議を進めていく」という意識を持ってもらうようにしています。これらの方法が功を奏したのか、徐々にラオス人スタッフの自由な意見、発言が増えて会議に活気が生まれました。あまりに自由すぎて会議の時間が大幅に延びてしまうこともありますが、シーンとした会議よりは大いに価値があるでしょう。

また、プロジェクトではこのスタッフ会議とは別に、カウンターパートへのプロジェクト進捗状況報告や重要事項の協議のために、四半期に 1 回運営協議会（Implementation management committee: IMC）を開いています。先日 1 月 31 日には第 8 回の IMC を開催しました。この会議には、直接のカウンターパートである VED の副局長、VEDI の所長、JICA 担当者、IV-JAPAN 代表等、各機関の責任者が来るため、普段のスタッフ会議で発言するようになったスタッフたちも、やはりこの IMC ではいつもより静かです。だからこそ、普段のミテーィングでできるだけ現場の声を吸い上げ、まとめ、IMC のようなより大きな会議でその声を反映できるような協議ができるよう、普段から積極的に意見交換を行っていきたいと思います。（現地調整員・大滝美佳）

IMC の様子

日本NGO連携無償資金協力事業(外務省)

～ラオス・ナーサイトン職業訓練～

＜ナーサイトン中級コース５期生＞

昨年11月より始まったナーサイトン職業訓練センター5期も、中級の終盤となり、訓練生たちは益々真剣に且つ楽しく訓練に励んでいます。中級に入ると学ぶ内容もより高度になり、専門家の先生からのご指導もあります。１月には日本人の美容専門家である早川貴恵先生による指導が2週間行われました。理美容の訓練生らは早川先生の最新技術に目を輝かしていました。早川先生はシャイな訓練生も自然に参加できるように気を配ってくださり、とても充実した訓練となりました。2月は、地元でテーラーを営むトーン先生のご指導のもと、縫製の訓練生は慣れない紳士服作製に取り組みましたが、温厚なトーン先生が丁寧に教えてくださったお陰で抵抗無く学べたようです。メイクアップはOJTでの指導経験もあるゲーソン先生が、今持っている基礎技術を用いてできる最新でかつ収入につながるメイクアップ法を教えてくださいました。2月28日にはナーサイトン郡最北部の小学校にヘアカットのボランティアへ行き、理容専門家のソムサイ先生のアドバイスを受けながら、2つの小学校で計93名の生徒の髪をカットしました。訓練生と小さな子供達の交流は心温まるものでした。3月3日から2週間、日本人の調理専門家である高倉昌子先生からは、本当にたくさんの日本料理を教えていただきました。訓練の一環として、ナーサイトンにある日系工場3カ所に昼食弁当のケータリングサービスを2日間行いました。訓練生達は役割分担して手際よく調理し、午前中だけで30食のお弁当を作りました 。心を込めたお弁当を『サバイディー』と笑顔で配達したときの達成感は今後の励みとなるはずです。3月11日から2週間、ラオス人のマッサージの専門家であるベテランのブンスー先生による訓練が始まりました。また3月21日は、3分野に分かれてスタディーツアーに出かけます。

このように日々の訓練やアクティビティー、専門家の先生方によるご指導で腕を磨く訓練生達は、4月4日の訓練修了まで今日も全力で訓練に励んでいます。（現地事業責任者　飯村浩）

―日本事務局職員ナーサイトン訪問記―

2 月 20 日、中級コース見学と上級コース進学希望者調査のためナーサイトン郡職業訓練センターを訪問しました。ビエンチャン中心部からバスで 40 分ほど行くと、喧騒を離れた静かで家もまばらな郊外にでました。見晴らしがよく広々としたところにセンターがありました。ちょうど縫製分野の生徒たちは背広製作の実習をしていました。どの教室も笑顔と活気に溢れていました。『学ぶこと』は楽しいのだな、と自分の学生時代を思い出しながら見学しました。午後からは起業した卒業生を訪問しました。国道沿いで開業している者もいれば、辺ぴな村はずれで開業している者もいます。自分のライフスタイルに合わせた起業ができるのです。先輩たちの活躍が、生徒たちの『学ぶこと』への意欲を掻き立てるのでしょう。（日本事務局　内部有子）

JICA地域経済活性化特別枠事業

～ラオス青少年の収入向上のための木工職業訓練～

―新しいプロジェクトが始まるまで―

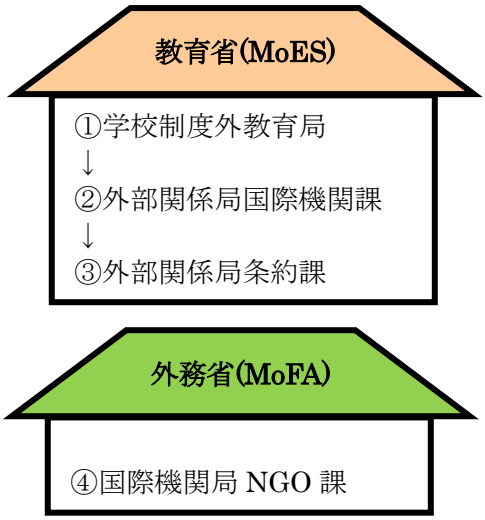
教育副大臣も出席して行われた２月 28 日の MOU 調印式

●最初が肝心！プロジェクト形成

ラオスで海外の NGO が活動するためには、様々な手続きやプロセスが必要でとても時間がかかります。木工職業訓練プロジェクトも同様に、当会専門家で当プロジェクトのマネージャーに就任した松本が事前調査に入った 2013 年 2 月からこの MOU(覚書)調印式まで 1 年かかりました。このプロジェクトの話はラオス教育省学校制度外教育開発センターというところから要請を受けて始まったのですが、どうも上手く進まない。というのも、様々な国の統治下で抑圧されてきた歴史的背景があるからか、ラオスの人たちは「自分の力で未来を切り開き、変えていく」というよりも「誰かが助けてくれるのを待つ」タイプが多く、自分自身で計画を立てて実行していくという力がとても弱いのです。こんな風になりたい、あんな風になりたいという夢や希望はあっても、それを実現するためのはしごをかける作業が苦手なのです。英語とラオス語でラオス政府との契約用の書類を作成し、細かい活動計画や役割分担などについて、カウンターパートである学校制度外教育開発センターのソムシー所長代理と何度も話し合いを重ねました。一緒にプロジェクトの計画を立てていく段階で、共通認識や相互理解を深め、さらに自分たちのプロジェクトであるという意識を強く持ってもらうことが重要なのです。

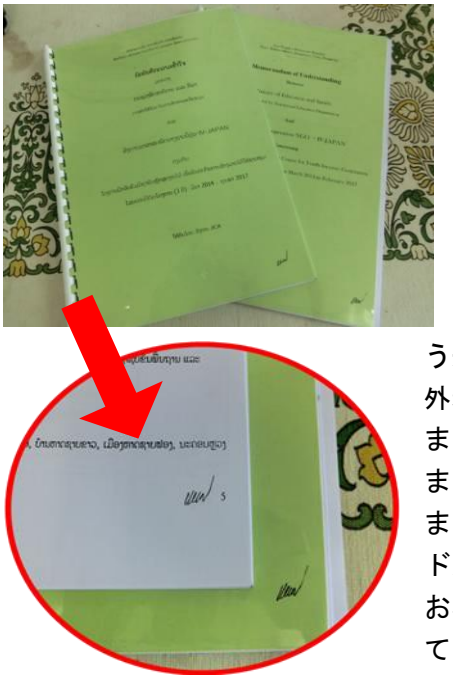
●プロジェクト承認～サインをもらいに教育省と外務省を行ったり来たり～

8 月初旬 JICA の内諾を得て、ソムシー所長代理と協議を始めてから 2 ヶ月程経ち、2013 年 11 月ようやく MOU 書類が完成しました。次は承認プロセスですが、ここからが本当に長いのです。右図のような流れで書類が承認されていきます。①はカウンターパートである学校制度外教育開発センターの上部組織にあたり、プロジェクトの内容が吟味されます。②では再度プロジェクトの活動内容や予算、特に運営費が 30%以内、活動費が 70%が守られているか、チェックされる他、当会がプロジェクト実施団体として的確であるかどうかの判断がなされます。③で始めて教育大臣にプロジェクトの話が持ち上がるのです。教育大臣の承認がとれたら、ようやく次は外務省です。④外務省の国際機関局で MOU の文言が一字一句チェックされ、最終的な修正が完了したら、国際機関局長の承認をもらいます。



このように様々な関係部署を通さなければ、私たち NGO の活動は承認されないのです。すべてのプロセスを完了するのに 6 ヶ月かかりました。うち外務省は 1 週間程度で済むことから、教育省やその他の省庁の手続きがなかなか進まないのがどこの団体にも共通する悩みのようです。

今回の MOU 調印式は JICA 地域連携の予算の都合でプロジェクトは 3 月中に開始と迫っていたので、準備が非常に慌しいものでした。教育大臣の承認がとれたのが調印式の 3 日前、調印式の前日に外務省国際機関局にサインをしてもらい最終版を教育大臣の手元に届けるという状態でした。書類が外務省にまわると国際機関局 NGO 課というところが MOU の文言を一字一句チェックします。書類に不備がなければ NGO 課長が MOU のすべてのページの右下に小さなサインをします。このサインのある書類でなければ調印できないのです。教育省から



MOU 一字一句確認のサイン

はもう修正はないだろうと言われていましたが、調印式前日になり外務省で修正を言い渡され真っ青になりました。修正箇所は日付や名称といった些細なものでたった 3 ページ。日本では事務所に電話連絡して修正してもらいメールで送ってもらうだけ、15 分もあれば済んでしまうような微修正です。しかしながら、紙ベースで仕事をするラオスではどれだけ時間がかかるのか読めないのです。サインがもらえなければ調印式も執り行えないし、プロジェクトも開始できません。「今日は一日中オフィスにいらっしゃいますか？」と担当課長に尋ねると、「たぶんね。」という返事。冷たいなぁと思いながら、あわてて事務所に戻り該当部分を修正し、外務省に舞い戻りました。すると NGO 課長は会議に入っており席を外していました。時間はすでに 11 時半。会議が終わったらそのまま食事に行ってしまうでしょう。「まいったなぁ。本当に戻ってくるかなぁ。」と心底不安でたまりませんでしたが、もはや打つ手なしということで諦めて私も近くのヌードルショップに行き、ずるずると麺をすすりながら彼の戻りを待ちました。お昼休みが終わって戻ると、課長のサインがされた書類がちゃんと準備されていました。こういうことがあるので、外務省は最短 2 週間かかると言うのを 2 日で処理してもらいました。ほっと一安心。最終版を教育大臣に届けることができました。（須田裕美）

彩の国さいたま国際交流基金および水と大地と緑の会助成事業

～ラオス・シェンクアン県ナムトム小学校建設～

修繕した旧校舎（写真左）と新設した校舎（写真右）

2014 年 1 月、朝は霧がでる真冬のシェンクアンで、心地よい日差しの降り注ぐ日に、クリーム色のきれいな校舎が完成しました。シェンクアン県中心部から車で 30 分ほどのところにある、ナムトム小学校に新校舎（2 教室）の寄贈式に出席してきました。当会ではさいたま国際交流基金（以下 SIA）の助成を受けて、2012 年度にレンガがむき出しで錆びたトタン屋根から雨漏りが酷かった既存校舎（3 教室）を修繕しました。あわせて学習机やベンチなども寄贈し子どもたちが気持ちのよい環境で学習することができるようになりました。しかしながら、1～4 年生の 118 人の児童数に対しては教室数が足りていなかったので、2013 年度は SIA と水と大地と緑の会からの助成金を受けて、新校舎（2 教室）を建設しました。教室数が充足したことでこれまで村外の学校に通わざるを得なかった 5 年生の生徒 15 名もナムトム小学校で学ぶことができるようになりました。また、奨学金ドナーの皆様のご支援で、水洗トイレ 2 戸を寄贈することができました。これから子どもたちが楽しく学んでくれることを願っています。

ラオス 2015 年ミレニアム開発目標達成なるか!?

IV-JAPAN が活動しているラオスは世界 195 カ国のうち「後発開発途上国」に指定されています。後発開発途上国は開発途上国の中でも特に開発が遅れている国々で、世界に 49 カ国あり、東南アジアの中では東ティモール、カンボジア、ミャンマー、ラオスが含まれています。ラオスは 2020 年の後発開発途上国卒業を目標に、海外からの援助や直接投資で社会経済開発を進めています。

ラオスの発展状況を判断する中間指標とも捕らえられているミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)があります。MDGs は 2000 年 9 月にニューヨークで開催された国連ミレニアム･サミットで定められた開発分野における国際社会共通の目標で、2015 年までに達成すべき 8 つの目標とその指標があります。ラオスはその特殊な歴史背景から不発弾の被害の削減という目標を追加し合計 9 つの目標を掲げています。2015 年まで残りわずかとなったいま、ラオスにおける MDGs 達成状況はどうなっているのか、UNDP(国連開発計画)のラオス駐在代表のミン氏を迎えての勉強会に出席してきました。

ラオスにおける MDGs の達成状況は、目標 3、4、6、7、8 は達成見込みにあるが、目標 1、2、5、9 は達成困難という報告でした。当会が大きく関わる教育分野では、2015 年初等教育入学率 98%という目標に対し 2012 年時点で 95.2%と男女ともにほぼ達成状況にあります。しかしながら、遅い入学年齢や高い留年・退学率など多くの問題を抱えており、小学 5 年生まで残り勉強を続ける児童(ラオスの初等教育は 5 年間)の割合は 1992 年の 48%から 2012 年時点で 70%まで向上したとはいえアジア近隣諸国と比較するとまだまだ低い状態にあります。また、都市部と地方の格差も激しく、特に地方では女児の退学率が高く、学校にトイレがなかったり、貧困により生理用品を購入することができないなど、女性特有のハードルが存在するようです。学力レベルは低く、初等教育を卒業していても 2,500 万人が読み書きができない状態にあるといわれ、教育の「質」が問われています。これまで日本をはじめとする援助国のサポートにより教育環境の改善が進められてきましたが、近年学力にあまり変化が見られないことから、教室の状態よりも先生の資質が大きく影響すると考えられています。教育の質が低い歴史的背景に 1970 年代の革命時の頭脳国外流出があるとも言われています。子どもを学校に通わせる義務のある親自身が十分な教育を受けていないケースがほとんどで、親の意識改革もふくめて、教育開発は一朝一夕にはいかないということを実感します。
その目標についても様々な課題が累積しており、このままでは MDGs 達成は難しいだろうという印象です。ビエンチャン特別市内は外国直接投資により人々は経済成長の恩恵を享受「しているように見えますが地方格差は激しく、国全体で公平な成長を実現できるような支援を私たち援助国側も考えていかねばなりません。

(OJT コーディネータ　須田裕美)

目標１：極度の貧困と飢餓の撲滅

目標２：初等教育の完全普及の達成

目標３：ジェンダー平等推進と女性の地位向上

目標４：乳幼児死亡率の削減

目標５：妊産婦の健康の改善

目標６：HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止

目標７：環境の持続維持可能性確保

目標８：開発のためのグローバルパートナーシップの推進

目標９：不発弾の被害の削減

タイ・ニュース

1

2

3

タイのチェンマイで1月16日～20日までガールスカウトの「フレンズ・オブ・アジア太平洋」の第4回総会が250人余の参加者を得て開催されました。昨年12月にIVのスタディツアーでチェンマイを訪問したばかりでしたが、久々に各国のガールスカウトとの再開に期待して出席しました。マレーシアからはエアーアジアの格安直行便があるためか、50 人余の大型代表団を送ってきました。もっともマレーシアの皇太子妃が「フレンズ・オブ・アジア太平洋」の名誉総裁をしていることもあり、皇太子妃が出席だと熱烈な取り巻きがお伴をするそうです。しかし前日に急病で皇太子妃はスイスの病院へ行かれたため欠席、ビデオメッセージが読み上げられました。アジア太平洋の国々の中でもモルディブやスリランカは各4名が参加、戦火のレバノンからも1名が参加、デンマーク、イギリス、アメリカからも参加がありました。日本からは20人も参加、懐かしい友人たちに10数年ぶりに会いました。

タイの内務省副大臣が開会宣言後、この会議では最近ガールスカウト世界連盟に加盟したミャンマーをサポートすることや、引き続き若い女性の地位向上や権利獲得の為につくすこと等が決議され、次回は3年後にブルーネーで開催が決定。期間中はタイ北部のランナー王国（12～18 世紀に存在し、百万稲田の王国の意味）の歴史や文化を学ぶプログラムや、また、各国の参加者と交流を深めることも目的の一つで、私は特にフィリピンのセブから来た2人と友人になり、1月からセブにIVフィリピン事務所が立ち上がったこともあり、収穫の多い会議でした。また、ラオスにガールスカウトが再開されるのを皆待ち望んでいましたが、まだしばらく時間が必要と思います。

地元のチェンマイには1990年の第1回からのIV元奨学金生がチェンライから大勢来て、裏方さんとして大活躍していました。（冨永幸子）

4

5

6

7

写真 ①タイ内務省副大臣による開会のゴング
②250人の参加者
③タイガールスカウト会長（左）とチェンマイ支部長（右）
④ダララット・ランプーン王女とチェンマイ日本総領事夫妻
⑤日本の代表団と
⑥タイの代表団と
⑦タイのボランティア

千客万来

【ビエンチャン外交官夫人グループ】2014 年 2 月 11 日

冨永代表が普段から交流のある各国大使夫人や大使館員夫人が参加するグループから、当会の活動について是非話を聞きたいというリクエストをいただきました。当日は岸野駐ラオス日本大使夫人初め、米国、英国、フランス、韓国、タイ、モンゴル、キューバ各国大使夫人等 11 名参加いただきました。当会職員によるプレゼンテーションを熱心に聞いていただき、その後 OJT レストランで松花堂弁当を召し上がられました。

【大学生国際協力フィールドスタディプログラム】2014 年 2 月 18 日 29 名

政府が 2012 年 6 月に取りまとめた「グローバル人材育成戦略」を受け、今年度から開始されたというこのプログラム。大学生が途上国の国際協力の現場でフィールド調査演習を行うことを通して、グローバルな視点と問題発見・解決能力を身につけることを支援することを目的としたものだそうです。当日は引率者の方も含め 29 名様分のラオス料理ビュッフェを OJT レストランで召し上がっていただきました。ほぼ全員が初めてのラオス料理だったため皆さん興味津々のご様子。特にタムマークフンという名前の唐辛子入りパパイヤサラダは日本人向けに辛さ控えめに作ってもらったのですが、それでも辛かったようで、「辛い！でもおいしい！」といって汗をかきながら一所懸命（？）召し上がっていただきました。

ランチ終了後は 2 グループに分かれ、14 名がそのまま残って当会の事業内容に関するプレゼンテーションを行いました。当会の職業訓練プロジェクトを見学していただいことで、学生の皆さんの新たな視点の習得、及び国際協力に対する理解拡大につながればと願っています。

【麗澤海外開発協会スタディーツアー】2014 年 2 月 21 日 6 名

毎年恒例になりましたが、今年も竹原教授率いる麗澤海外開発協会のスタディーツアーがご来訪。事業内容紹介のプレゼンテーション後、竹原教授は参加された学生さんに対し、国際的な人材としての英語の重要性、ラオスにおける職業訓練の意義などをお話されていました。OJT 店舗ではランチの他にもシャンプーやマッサージなども体験され、女子学生 2 人も美容の生徒にやってもらったネイルアートにご満悦の様子でした。

国内活動報告

1 月 29、30 日の 2 日間「埼玉ビジネスアリーナ 2014」が開催され、埼玉県庁の共助社会づくり課の NPO ブースに参加しました。埼玉県にある NPO 団体を企業に知ってもらうための貴重な 2 日間でした。参加企業は工業系の展示が多く、一見、ラオス･縫製･理美容･調理･木工分野との関連性のないところばかりでした。しかし、まずは IV-JAPAN という団体を知ってもらうことが第一歩。各企業ブースを回り、お話を聞き、IV の活動も聞いて頂きました。そして分野は違えど『ものづくりの技術』を日本国内にも海外にも広めていきたいという信念は一緒なのだということをお互い感じることができました。さらにはアジア進出に興味を持っている企業も多いこともわかりました。私自身、もっとラオスと日本企業への知識を深め、今後、これらの企業と技術移転、人材派遣、機材供与などで、共に何かを創っていければ良いと思いました。（日本事務局　内部有子）

幸子のラオス便り No.26

—ラオスの祝い事—

乾季は 11 月から 4 月ごろを言いますが、特に 12 月から 2 月ごろはラオスの冬ですが、今年は特に寒く、最低温度が摂氏 6 度、最高でも 16 度くらいの時もありました。暑いとき用に住宅は作られていますので、天井は高く、暖房設備はないので、とても寒かったです。女性にとってはおしゃれができるうれしい季節でもありました。気持ち良い季節もつかの間、3 月～4 月は最も暑い季節ですが、6 月の雨季入りの「カオパンサー」が始まるまでは結婚式、クリスマス、大晦日の新年カウントダウンパーティ、1 月 1 日の国際正月、2 月の中国・ベトナム正月、ラオス正月の 4 月 13 日～16 日とお祝いごとが続きます。

最近ラオスの人たちが嘆いていることがあります。この時期、結婚披露宴の招待状が 1 晩にいくつも来て、あちこち梯子をしなければ義理が果たせません。結婚式に参加するのは楽しいのですが、皆を悩ましているのは、お祝いに包むお金なのです。

「ラオスの結婚式」

ラオスの人口の約 70%がラオルム族ですので、ラオルムの結婚式をまず紹介しますね。

結婚式は午前中に新郎の家に新郎の関係者が集まり、バーシーという伝統儀式でお別れの儀式をします。花嫁の家に花婿行列で向います。ラオルムの習慣では婿入り婚になります。花婿にはお供の人が傘をさしかけて日陰を作ります。花嫁の家につくと花嫁の親戚の人たちが紐（ひも）で入口をふさいで、花婿を家に入れません。そこで押し問答をします。「あなたは良い夫になりますか」、「浮気はしませんか」、「花嫁を大切にしますか」、等々周囲を笑わせながら問答が続きます。

ようやく花嫁の家に入れてもらえると、結婚式のバーシーがあります（写真左下）。バーシーのための花飾りは１メートルぐらいの高さで、芯にバナナの幹を立て、その周りにバナナの葉を折り紙のように切って、何枚も葉の形に折り、それを竹串でつないで大きな葉っぱを作り、先端に花を付けます。これをいくつもバナナの幹に刺して、お城のように飾り付け、てっぺんにはローソクが付けられていて、火をともします。このバーシーの花飾りは結婚式では特別１対（2 個）作ります。

花嫁花婿は花飾りの前に並んで横座りし、手は合掌します。これがラオスの正式な座り方と挨拶です。次に村の長老のお祈りが始まり、最後に花嫁と花婿は手を交差して相手の口にもち米を入れて食べ差します。また、キオマークというチュウインガムのような嗜好品がありますが、その材料の一つにビンロウ樹の実があり、その実を切る独特の鋏を花嫁花婿が二人で持ちます。これはなんでも二人で協力してやればできるとのことで、これで新郎新婦が誕生し、バーシーに出席した人が皆、花嫁花婿に白い木綿の糸を手首に巻いて祝福します。手首にはお祝いのお金も一緒に巻きます。出席者同士もお互いの幸福や健康を願って巻きますので、皆の手首は木綿の糸で５センチ以上にもなります。昼食を皆様に供して長い結婚式は終わります。バーシーは仏教行事ではありませんので、お坊さんも呼びません。これは精霊信仰からきています。

午前中にラオス式の結婚式「バシースックワン」が終り、夜７時からは披露宴になります。会場の入り口に新郎、新婦と親戚が並び、お客さまを迎えますが、その近くにお祝い金を入れる郵便ポストみたいな大きな箱が用意されていますので、名前の書かれた招待状にお金を入れて、箱に入れます。参加者が大かた集まる８時ごろになると、会場正面に新郎新婦と親戚が一列に並び、挨拶が終わると夕食になります。そして新郎新婦は皆さんの前で、ランボンという、日本の盆踊りに似た踊りを二人で踊り、次にスローダンスを二人で踊ります。

それから両親、親戚や来賓を誘い、輪になってランボンを踊ります。ランボンは男女一組で踊りますので、輪の内側が男性、外側が女性です。音楽は生バンドとプロ歌手を用意します。そしてダンスは真夜中までランボンやチャチャチャ、スローダンス等様々のダンスで盛り上がります。

「祝い金の額」

私もラオスに来たばかりの時はラオスの習慣が分からなくて、招待状を頂いても、その封筒にお祝い金を包むことを知りませんでした。これは結婚式に限らず、チャリティ・コンサートや、銀婚式、誕生会、出産祝いと、なんでも招待状を頂いたら、その封筒にお金を包みます。お葬式も同様に封筒にお金を包みます。日本も結婚式やお葬式にお金を包むし、これはアジア人に共通しているようですね。

ヴィエンチャンでは結婚式が年々派手になり、ホテルや結婚式場を使うのが流行りです。それにはお金がたくさん掛かりますので、結婚式まで何年も掛てお金を溜めます。日本と違って、招待する人も親戚や友人だけでなく、ちょっと知り合った人にも出します。その規模が 1000 人から 1500 人くらいはざらです。だいたいお祝い金で披露宴の費用は賄えるようです。

庶民は披露宴会場を借りなくても自宅前の道路にはみ出して大きなテントを建て、いすとテーブルで簡単に披露宴会場は設営できます。そういう貸出し業者はどこにもあります。

田舎では小学校の校庭が結婚披露宴会場になって、教室の机やいすを持ちだして会場を簡単に作ることができます。おおらかなラオスらしいですよね。大勢の人に祝ってもらいたいのはいいのですが、お祝金を目当てにして招待状を誰彼にも出すのがこのごろ多いです。

お祝い金は富裕層と一般庶民や地方とでは違いますが、食事の実費くらいのお祝金を包むのが常識です。結婚式場でやる都会の場合は最低 20～30 万キップ(約 2～3 千円)、親しい人の場合は 100 万キップ（約 1 万円）を包む人もいます。外国人ともなるとラオス人の 2 倍は包むことを期待されています。

この時期 1 カ月に 10 通くらいの招待状は普通です。ラオス人の公務員給料が昨年より 30%程度上がっていますが、公務員平均月収 2 万円前後、これでは家計を圧迫するのは必定です。どうやってラオス人がお祝い金を生みだすのかはとても不思議です。

玄関でお客様を迎える花嫁花婿と母親たち

生バンドで踊る新郎新婦

踊る人でいっぱいのフロアー

お　知　ら　せ

—ＮＨＫラジオ深夜便—

第 13 回目を迎えます「ラジオ深夜便」出演ですが、冨永幸子が今回はラオスから生放送で「ラオスの若者」について話します。皆様お聴き逃しなく。

日時：2014 年 4 月 19 日（土）午前 00 時 10 分ごろ

—ラオス料理教室—

◎アジアの語学、文化、経済、社会等を学ぶ機会をつくり、アジア理解の促進を図るため「アジア理解講座」を IV 主催で年 2 回程度開催予定です。今回はラオス料理教室を開催します。

日時：　2014 年 5 月 17 日（土）　午前中　　（予定）

場所：　さいたま市立桜木公民館　調理実習室　　参加費：1,000 円

※詳細は IV-JAP AN 事務局までお問い合わせください。皆様のご参加をお待ちしています。

―お願い―

☆ **書き損じハガキ**および**未使用ハガキ**を集めています。年賀状の残りや古いハガキ等、当会まで送料ご負担いただきますがご寄付いただけますと幸いです。未使用のものはそのまま皆様への通信に使用し、それ以外は郵便局へ手数料を支払い切手に換えています。通信費の削減になり、その分事業に充てることができます。どうぞ宜しくお願いいたします。

☆ **ＢＯＯＫ募金**にご協力を！

不要になった書籍・DVD・CD・ゲーム機・ゲームソフトを(株)プレジャーワークスに「BOOK 募金」の申込みをし、査定額の送金先を IV-JAPAN に指定していただきますと、当会の口座に寄付金として送金されます。すでに会員や会員以外の遠方の方からもご寄付いただいています。宅配業者が集荷してくれますので皆様のご協力宜しくお願いいたします。詳しくは下記連絡先へお問い合わせください。

問合せ先：(株) プレジャーワークス（tel:0120-102-150、Email:info@bookbokin.jp、http://bookbokin.jp　）

♡♡♡ ご協力ありがとうございました!! ♡♡♡　　―順不同・敬称略―

♡♡ カノック奨学金ドナー紹介 ♡♡　(2013/12/16 から 2014/3/31 まで)

沖野和利、ガールスカウト日本連盟千葉県第 45 団、石黒　進（2 口）、ガールスカウト大阪府第６１団、宗像邦司
伊東慶子、太田榮次（2 口）、小野寺さとみ（3 口）、謝花恵子（2 口）、泉　久子（2 口）、入澤恵子、菅原由紀
黒田　歩・浩己、佐藤美津子（3 口）、宮村　肇（10 口）、奈良伊世、岩月優子、蛭間愛子、比嘉エリ子、川畑康子
小松文子、関　定夫、津本蓉子、込山まち子、中田みどり、嶋　美喜子（4 口）、春日　曠、宮下ひとみ、高石順子
賀元澄子、上原　望、八木道子、菊原享子、三澤純子（2 口）、小林佳代子、利根川恵子、森　典子、石井有美
大橋國江（2 口）、大野宏江（3 口）、根橋淑江、James A Cummings、早坂弘子、近藤利雄（2 口）
高見沢啓二（2 口）

❤運営・プロジェクト費寄付者一覧❤

(2013/12/16 から 2014/3/31 まで。5,000 円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。)

伊藤裕子（403 万円）、バンサトリー（11 万７千 730 円）、小野寺さとみ（１万４千円）、(株)肌箋舎（3 万円）
（有）イチカワ北海食品（1 万円）、高石順子（8 千円）、込山まち子（8 千円）、石黒　進（6 千円）
泉　久子（6 千円）、森田豊則（5 千円）

★続・フィリピン台風 30 号募金者一覧★

リリーベール小学校(1 万 2,754 円)、宮村　肇（3 万円）、沖縄１０５ストアー（2 万円）、上田敦子（5 千円）

＜編集後記＞　「風さそう　花よりもなお　われはまた　春の名残を　いかにとかせん」(浅野内匠頭辞世の句)。執筆中の今、春は始まったばかりですし、縁起でもないと思われるかも知れませんが、今年は新規事業の開始やその他、例年以上に IV 事務局としての業務に拡がりがあります。そのような中、意味合いを比較することはできませんが上記短歌のような心境になるかも知れません（春の穏やかさを満喫し損ねた？）。

フィリピン事務所開設や新規木工事業開始に伴い日本人スタッフが 3 名ラオスに赴任、国内含めて合計 9 名になりました。ラオスに 1 名（代表）、日本事務局に 1 名（井藤）のみという時期もありましたので大変感慨深いものがあります。これまで、また今後もドナー始め関係者の皆様のご支援、ご協力を得て IV-JAPAN は発展していきます。ありがとうございました。そしてどうぞ宜しくお願いいたします。(事務局　井藤)

＜随時会員を募集しています＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します

① 奨学金ドナー　　年１口　**12.000 円**以上

② 国際協力費又は運営費ドナー　　★個人 年１口　3.000 円以上　　★団体及び法人 年１口　10.000 円以上

・申込方法(銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下 4 桁の明記をお願い致します)

郵便振替　：(口座番号)　00140-5-537168　**(加入者名) IV-JAPAN**

銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　(※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。)

(普通)　口座番号:5038052　　名義人：(特非) 国際協力 NGO・IV－JAPAN

日本事務所

〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2
シティヒルズ 101
TEL:048-622-8612 / FAX:048-622-8612
E-mail:iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/

ラオス事務所

P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR
TEL/FAX ： +856-21-316047
携帯電話；+856-20-55515122
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

タイ事務所

Continental Mansion 34/7 Soi Lertpanya(Rajsavithi9)
Rangnam Rajsavithi　Bangkok 10400
TEL:+66-2-2644933-8 / FAX: +66-2-2644933(ext.104)

フィリピン事務所

112 A.S.Fortuna St.Bakilid Mandaue-City Ceb
Philippines
TEL:+91-53-407-716